

関西学院大学 研究成果報告

2022年 3 月 31 日

関西学院大学 学長殿

所属：教育学部
職名：教授
氏名：峯岸由治

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input checked="" type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	グローバル資質形成を図る日本の「伝統と文化」教材の開発と検証
研究実施場所	グローバル日本文化教育研究センター
研究期間	2018 年 4 月 1 日 ～ 2022 年 3 月 31 日 (48 ヶ月)

◆ 研究成果概要 (2,500字程度)

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

1. 以下の研究活動を行った。
 〈2018年度〉
 (1) 共同研究会 (2018年4月28日、2019年3月29日) を開催した。(2) 調査活動を行った。国外は、2018年9月10日から9月21日にかけてフランス等を調査した。国内は、北方民族博物館、北海道教育大学、けん玉ワールドカップ、姫路城、廿日市市立廿日市小学校、春日部市立宝珠花小学校、きのくに子どもの村学園、リラ創造芸術高等学校等を調査した。(3) 中国における日本文化教科書発刊に伴う意見交流会を開催した。(4) これまでの研究成果をもとに社会、家庭科、生活科の教材を開発した。(5) 試作的に開発したデジタル教材を大学生、小学生に使用し、意見を求めた。(6) 学生を対象に以下の研究発表を行い、作成した教材を活用した。①2018年5月1日、聖和キャンパス2号館で、学生とともに「鯉のぼりに」をテーマに研究発表を行った。開発した次のデジタル教材を研究発表で使用した。「知ってる！鯉のぼり」「ダイコンの話」「七草がゆ」「文化シンボルとしての鯉のぼり」②2019年1月8日、聖和キャンパス2号館で、学生とともに「正月」をテーマに研究発表を行った。開発した次のデジタル教材を研究発表で使用した。「七草がゆ」「旧暦と新暦の話」(7)2018年5月5日に「聖和キャンパスから舞い揚げよう空の翼！鯉のぼり」活動を「門戸厄神地域活性化実行委員会」と共催して開催した。(8) 共同研究、並びにグローバル日本文化教育研究センターの研究成果に基づいて、「グローバル

世界に発信する『日本文化の魅力』の教育意義と教育体験」として、2018年度総合コースの講義を開講した。

〈2019年度〉

(1) 共同研究会(2019年3月29日)を開催した。(2)調査活動を行った。国外は、8月30日から9月5日にデンマーク・オーストリアのけん玉コミュニティ等を調査した。また、9月16日から21日、中国において研究交流、並びに調査を実施した。国内は、和文化教育学会研究大会において研究動向を調査した。(3)試作的に開発したデジタル教材(「けん玉」)を総合コースにおいて活用し、意見を求めた。(4)学生を対象に以下の研究発表を行い、作成した教材を活用した。①4月23日、聖和キャンパス2号館で、「鯉のぼり・日本食(和食)」をテーマに、門戸厄神地域活性化委員会中島国隆氏・浅野敦氏、本学部学生とともに研究発表を行った。開発した次のデジタル教材を研究発表で使用した。「文化シンボルとしての鯉のぼり」「旧暦と新暦の話」「伝統野菜の保存・継承」②10月29日、聖和キャンパス2号館で、「西宮の地域文化」をテーマに、日本伝統芸術文化財団理事森村暁子氏、本学部学生とともに研究発表を行った。開発した次のデジタル教材を研究発表で使用した。「伝統野菜の保護・伝承」(5)年5月1日、「新元号の始まりの天空に世界の平和と文化交流を祈念して」、万博記念公園で実施された「こいのぼり」活動を共催した。(6)共同研究、並びにグローバル日本文化教育研究センターの研究成果に基づいて、「グローバル世界に発信する『日本文化の魅力』の教育意義と教育体験」として、2019年度総合コースの講義を開講した。

〈2020年度〉

コロナ禍の影響を受け、例年のような研究活動を展開できなかった。その中でも以下の研究活動を行った。(1)メールによる意見交換、研究交流を行った。(2)共同研究、並びにグローバル日本文化教育研究センターの研究成果に基づいて、「グローバル世界に発信する『日本文化の魅力』の教育意義と教育体験」として、2020年度総合コースの講義をオンラインで開講した。

〈2021年度〉

コロナ禍の影響を受け、例年のような研究活動を展開できなかった。その中でも以下の研究活動を行った。(1)メールによる意見交換、研究交流を行った。(2)国内の調査活動を行った。福岡県朝倉市筑後川山田堰、福岡市立春吉小学校、福岡市ペシャワール会事務局、日本けん玉協会、山中城跡、三嶋大社、奈良美術館等の調査を実施した。また、和文化教育学会研究大会において研究動向を調査した。(3)埼玉県加須市立三俣小学校において、「シンボルとしての鯉のぼり」(4年生)、「江戸時代の城(城郭)」(6年生)の実験授業を実施した。

2. 上記の研究活動による研究成果は、以下の通りである。

〈2018年度〉

(1)書籍：中村哲編著『「伝統や文化」に関する教育の性格と教材開発』(銀河書籍)、岩坂二規・「大島ワーク」50年記念誌編集委員会『道一学生YMCA「大島ワーク」の50年』(関西学院大学生生活協同組合書籍部)(2)論文：中村哲「『伝統や文化』に関する教育の教育課程の形態と性格」、「社会における『伝統や文化』に関する教材開発－伝統行事」『「伝統や文化」に関する教育の性格と教材開発』、「小学校社会科における主体的・対話的で深い学びの指導」今宮信吾編著『人間教育をすすめるために』、「伝統と文化」教育における〈基本的な見方・考え方〉日本人間教育学会編『教育フォーラム61』、「和文化教育を通じて人生や社会をよりよく生きる涵養を」『教育フォーラム62』、「『日本の伝統・文化理解教育』と人間性の涵養」『教育フォーラム63』、上中修「家庭における『伝統や文化』に関する教材開発－『地域の食』教育の視点」『「伝統や文化」に関する教育の性格と教材開発』、峯岸由治「生活における『伝統や

文化』に関する教材開発一風』、『「伝統や文化」に関する教育の性格と教材開発』、森田雅也「手紙の道。遙かなり。地方俳壇と物流網が織りなす書簡ネットワーク」『文学・語学』、Rediscovery of marine culture from the ancient Japanese literature “Nihon Eitaigura” by Saikaku: Journal of Ocean & Culture(3) 翻訳：岩坂二規『教師と人権教育』〈オスラー／スターキー（著）藤原／北山（監訳）第6章担当

〈2019年度〉

(1)書籍：五百住満他編著『教育法規・教育行政入門』ミネルバ書房、中村哲編著『桃山学院教育大学 教員養成カリキュラムの持続的構築－教職課程科目のカリキュラムと授業実践を焦点として－』銀河書籍(2)論文：岩坂二規「学生YMCA ハンセン病療養所訪問プログラム 50年史の研究－若者のボランティア行動がひらくライフストーリー－」『関西学院大学 人権研究』第24号、上中修「伝統野菜『大市茄子』栽培活動を実践した幼稚園教員の意識把握」、中村哲「『日本の伝統・文化理解教育』と人間性の涵養」『教育フォーラム63』、中村哲「社会系教科教育学会研究発表大会の性格と意義－講演・シンポジウム・課題研究を焦点にして－」『社会系教科教育学研究のブレイクスルー－理論と実践の往還をめざして－』、根岸紳「順序ロジットモデルでプロ野球分析」『産研論集』47号、森田雅也「古典文学における「物語」と「読者」－書写・印刷史を視座として－」『文学・語学』第227号、「俳諧師西鶴の軌跡－その蠢動期の再検討を中心として－」『人文論究』第69巻3・4合併号、峯岸由治「地域伝統文化の継承を図る学校教育の構造－埼玉県春日部市立宝珠花小学校（当時）の場合－」(3)口頭発表：上中修「ユネスコ無形文化遺産に登録された和食文化とその保護と継承」、中村直人「古墳にみる文化遺産の歴史的・教育的意義の検討－世界文化遺産『百舌鳥・古市古墳群』を事例に－」和文化教育学会研究大会

〈2020年度〉

(1)論文：峯岸由治「地域に伝わる『大風揚げ習俗』への参加と継承を図る学校教育の構造－埼玉県春日部市立宝珠花小学校の場合－」、関西学院大学教育学会『教育学論究2020』第12号

〈2021年度〉

(1)論文：岩坂二規「関西学院聖和キャンパスにおける多文化共生イベント『わ～んど・にじいろ・まつり』の取り組み」『関西学院大学 人権研究』第26号(2)報告：上中修「授業報告：第10回「グローバル日本文化としてのお茶と和菓子の教育意義」『共同研究 報告書』、峯岸由治「グローバル文化として発展するけん玉教材の開発」、「シンボルとしての鯉のぼり教材の開発と検証」『共同研究 報告書』(3)口頭発表：中村直人「日本文化を形成する宗教文化（仏教・神祇信仰）仮」西宮市生涯学習「宮水学園」自主グループ「古社寺会」、「近世城郭の成立」園田学園女子大学・シニア専修コースオンラインキャンパス、峯岸由治「世界を対象とした生活科授業実践の動向－小一生活科授業実践『ジャンケン・子どもと世界をつなぐもの』を手がかりに」第28回日本グローバル教育学会全国研究大会

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。